

6 - 4 全国大学合同 1996 年中部山岳地域総合観測 Joint Observation in and around the Central Mountain Area in 1996.

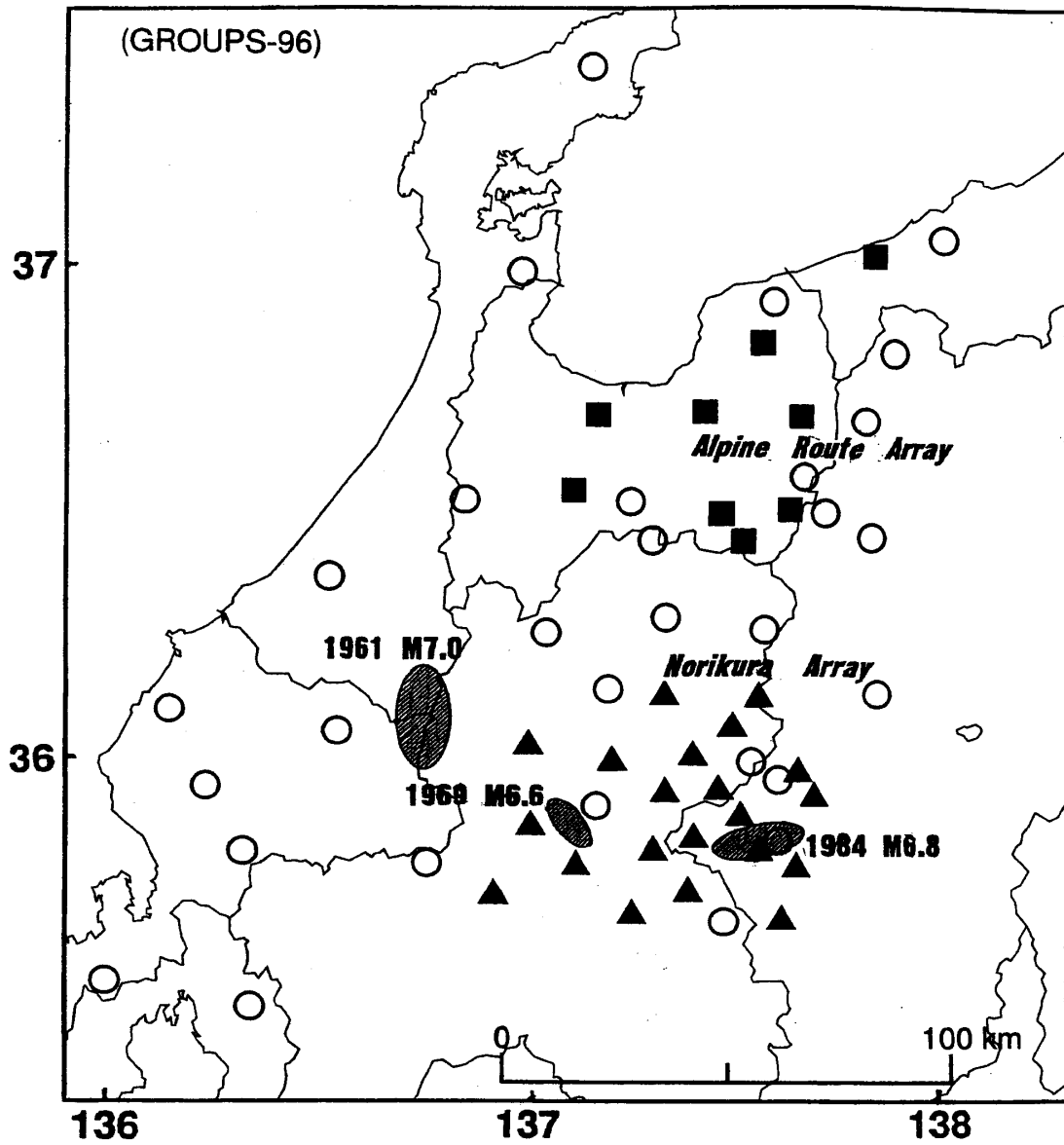
名古屋大学理学部
京都大学防災研究所
信州大学理学部
岐阜大学教育学部
鳥取大学工学部
京都大学理学部
福井高等専門学校
東京大学地震研究所
富山大学理学部
金沢大学理学部
東京大学理学部
東北大学理学部
弘前大学理学部
北海道大学理学部
千葉大学理学部 他

School of Science, Nagoya University
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University
Faculty of Science, Shinshu University
Faculty of Education, Gifu University
Faculty of Engineering, Tottori University
Faculty of Science, Kyoto University
Fukui National College of Technology
Earthquake Research Institute, Tokyo University
Faculty of Science, Toyama University
Faculty of Science, Kanazawa University
Faculty of Science, Tokyo University
Faculty of Science, Tohoku University
Faculty of Science, Hirosaki University
Faculty of Science, Hokkaido University
Faculty of Science, Chiba University et al.

内陸大地震発生の場合である内陸部地殻の不均質構造を総合的に解明し、大地震発生との関連を探る目的で、全国の大学が共同して中部山岳地域で地震集中観測をはじめとした総合的な観測を実施したので、その概要を報告する。

7月中旬から10月下旬にかけての3カ月間、第1図に示す地域に臨時地震テレメーター観測点を30点展開し、既設観測点のデータとともに、名古屋大学高山地震観測所ならびに富山大学理学部にデータを集中して自動処理・収録を行った。データの集中には、地上臨時専用回線の利用とともに、新たな試みとしてコンピューターネットワーク回線、通信衛星回線（黒部観測点）を用いた。

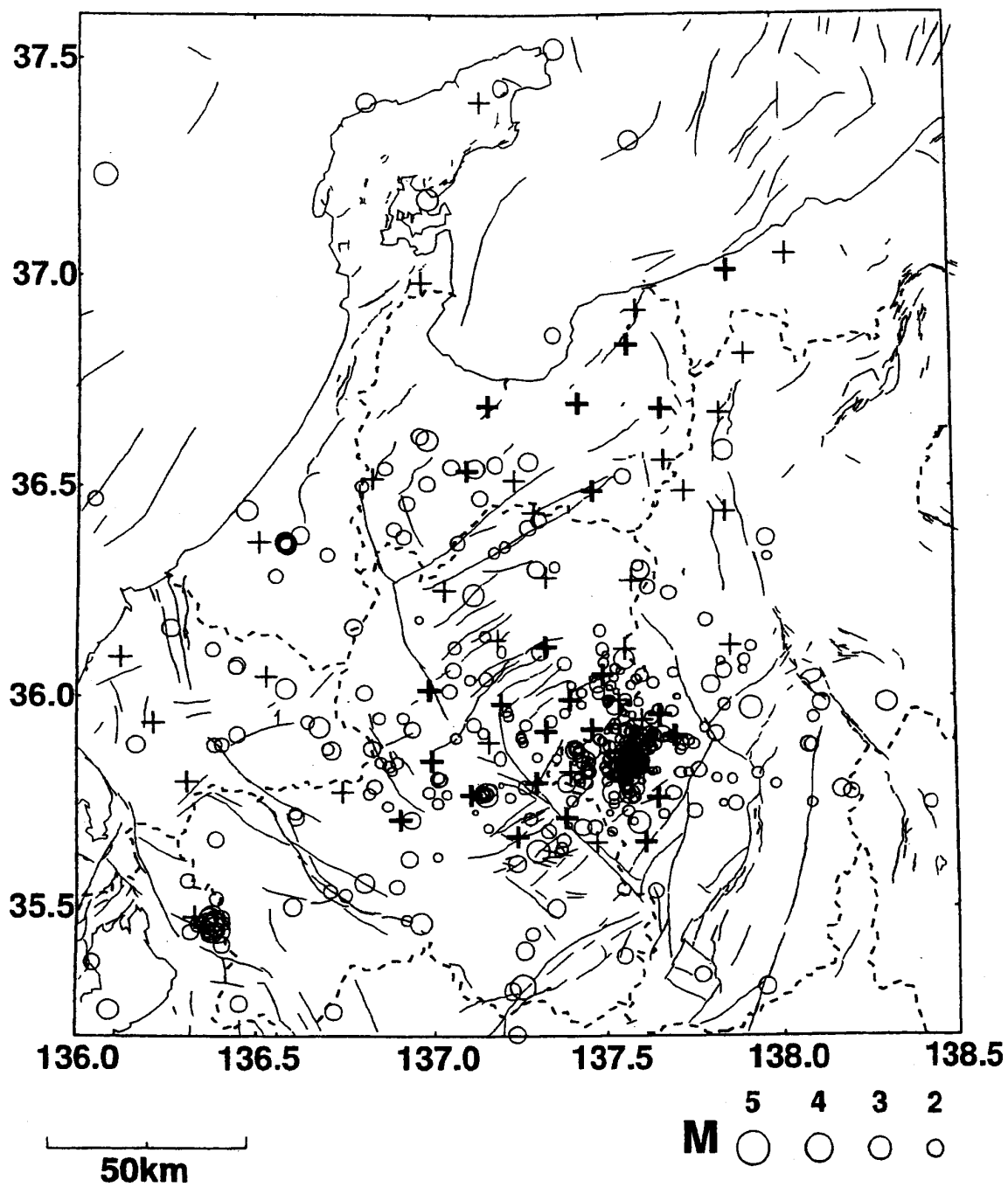
また、この観測網の中で、飛騨山脈を横断する2つの稠密アレー測線（50観測点のアルペンルート測線、および64観測点の乗鞍測線）を展開し、山脈直下の構造解明をめざした。その他、電磁気合同観測をはじめとした諸項目の観測を実施した。



第1図 地震観測点配置。
 ▲：南部広域臨時観測点
 ■：北部広域臨時観測点
 ○：既設テレメーター地震観測点

Fig. 1 Distribution of the seismic network.
 ▲：Southern temporary station.
 ■：Northern temporary station.
 ○：Telemetered routine station.

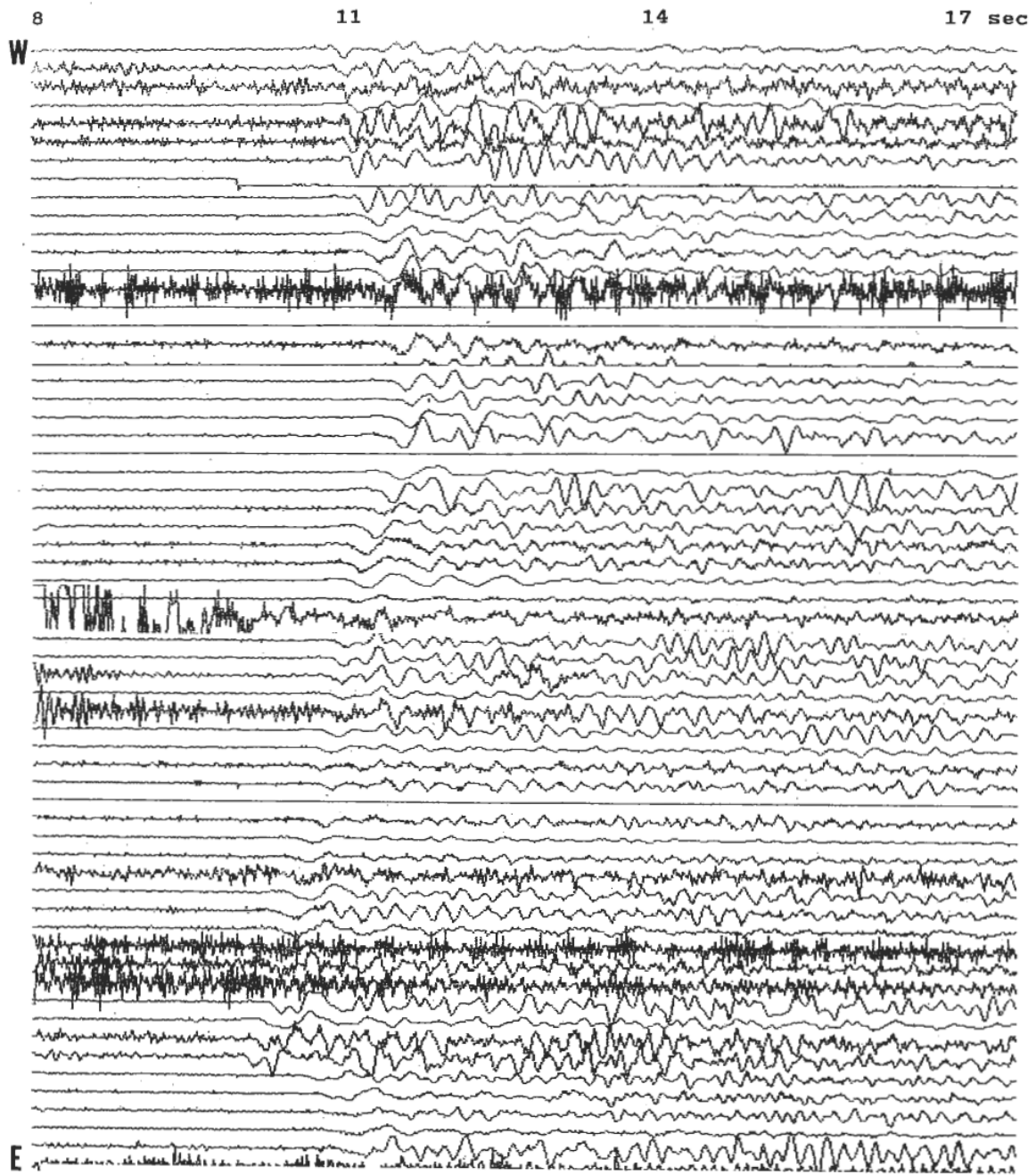
GROUPS-96 (960720 - 960809 auto-pick), NO= 470



第2図 自動処理で決定された震央分布

Fig. 2 Epicentral distribution determined in automatic data processing.

'96 9/16 19- 1



第3図 乗鞍稠密測線で観測された地震記象例

Fig. 3 An example of seismic recordings obtained in the observation of Norikura dense network.